

2018年2月1日

2017年度第3四半期決算説明会 質疑応答サマリ

沖電気工業株式会社

Q： 情報通信事業に関して、第3四半期および第3四半期累計については通期計画の増益幅に比べるとずいぶん順調な動きのように見受けられます。前倒しの要素と需要環境が変化している要素とに分けた場合、それぞれについての影響はどれくらいでしょうか。

A： 前倒しの数字についてはご容赦いただきたい。増益となっている主な要因は、一部の官公庁、社会インフラ関係の売上とそれに伴う保守関連工事などです。元々、第4四半期に偏重する構造というところもありますが、基調としては世の中の流れにそった巡航速度での増収増益となっています。

Q： 官公庁や社会インフラ関連が順調とのことですが、これらは期中に受注が急に増加して出荷するという類のものではないように思います。期初に見込んでいなかったことが今、起きているという理解でよいのでしょうか。

A： 案件として期初見込んでいなかったものが発生するということは基本的にありません。その案件のボリューム感や時期について、我々が想定していた以上に順調に入ってきているということです。

Q： メカトロシステム事業に関して ATM の第3四半期の国内、海外の台数について教えてください。また、これまでの3四半期を見ていると毎四半期ごとに15億円程度の赤字を出されています。前年の第4四半期は一時費用110億円を除くと17億円の赤字です。この第4四半期を考えると、ここまでの3四半期に比べて良化する要素はありますか。

A： ATM の台数については第3四半期累計で、国内については年間計画9,500台に対して5,500台になります。中国は年間計画7,000台に対して3,300台、中国を除くその他のグローバルについては、年間計画7,000台に対して2,900台です。中国は都市部への普及、電子マネーの普及がありますので昨年度のこの時期は1万台を若干切るくらいであったことと比較しても大変厳しい台数です。その他のグローバルにつきましては、前年の同時期が大体、3,100台くらいですので、そこからするとややスピードが遅い状況です。インドなどで一部特殊な事情があり、数字が伸び悩みました。第4四半期で良化する要因があるかというご質問ですが、国内の3月にかけての受注が、例年対比で多くなっています。国内の需要をもって底上げができるということで現在、予想しています。

Q： 第 4 四半期だけを切り取った場合に国内は前年比で改善要因があり、中国はそんなにはない、ブラジルもそんなに大きくはない、という理解でよろしいでしょうか。

A： 地域ごとの収益状況をご説明します。この第 3 四半期累計の赤字額のおよそ 4 分の 3 がブラジルに起因します。ブラジルについては今年度、赤字を大きく圧縮する予定でしたが、現状は前年とほぼ変わらない状況です。中国については販売台数が伸び悩んでいます。保守など含めた中国での事業トータルの収支は概ねイーブンです。インドを中心としたグローバルは、若干の特殊事情もあって価格が大きく下落しています。市場としては成長性がありますが、今年度については残念ながら一部見込んでいた大口案件を落札できず、予定台数を確保できなかったこともあり厳しい水準になっています。国内については概ね順調です。

Q： メカトロシステム事業について、戦略の見直しをするという説明がありましたが、これは費用構造を変えるということではなくて、事業に対する取り組み方を変えるということを検討しているということでしょうか。その場合、一定の費用がかかったりすることがあるのでしょうか。

A： 先ほどのご説明の中で「中長期的な展望も踏まえた事業戦略の見直しを行っております。」と申し上げました。コスト構造も含めて、環境変化に即してどういうものを作っていくか、というようなことを見据えた中長期的な展望を踏まえた戦略の見直しということで、検討しています。仮に一時的な費用が発生するような場合には、しかるべきタイミングで適時適切に公表をします。

Q： メカトロシステム事業の中国についてですが、ATM の台数は第 1 四半期、第 2 四半期に比べると第 3 四半期の販売台数は結構大きくなっていますが、季節性という理解でよいでしょうか、それとも低調ながらも投資がまた始めているということでしょうか。

A： 季節性をご理解ください。

Q： プリンター事業について、第 3 四半期累計で前年比 27 億円改善ということですが、為替の効果と構造改革の効果に分けるとすると、どんなイメージになりますか。

A： 為替の効果はプラスでおよそ 17 億円、残りの 10 億円のうち構造改革の効果は半分よりやや少ないくらい、他は販売投資の抑制などです。

Q： プリンター事業の構造改革に関わる特別損失は、当初は上期で 25 億を使うということでしたが、第 3 四半期累計で発生した構造改革費用が 16 億円になっています。残り 9 億円を第 4 四半期でやりきるということでしょうか。完遂すれば年間 10 億円近い効果が来期に期待できるのでしょうか。

A： 構造改革については一部に遅れがありますが、年度内で概ね完了する予定です。来期

については構造改革の効果をよく精査したうえで、別途ご報告させていただきます。

Q： 全社費用は第3四半期累計で見ると前年に比べて進捗が早いですが、特殊要因があるのでしょうか。通年では計画通りになるのか教えてください。

A： 今年度特殊なものといえますと TOB に関する費用がございますが、年度末には予定の数字で着地する見込みです。

Q： メカトロシステム事業のブラジルについて、ブラジルの銀行が発表している資料を見ると ATM の稼働台数が減っている方向も見えますし、電子決済についてのコメントも増えているように見受けられます。また独立系の ATM ベンダーが相対的には勢力を伸ばしているようですが、中国と同じような動きになっているのでしょうか。ATM の稼働台数が減っていく中で、銀行はリサイクル型 ATM にシフトしていくということでしょうか。OKI の理解を教えてください。

A： 今のブラジルの銀行の支店数とか金融機関の動きにつきましては、そこだけをとらえますと中国と同じような動きに見えますが、中国とまったく同じような決済系の動きが進展した結果という風にはとらえていません。ブラジル経済は最悪期を脱したこととはいえ、まだまだ銀行はリストラモードといえますか、そういう流れの中での動きという風に認識しています。CD については入札の動きもトレンドとして出てきています。稼働台数減少という面では似ていますが、中国の後追いに入ったという認識はありません。ブラジルにはディーボルトなど強いコンペティターがおりますので、当然ながら競合が厳しいこともあります。

Q： 中国の ATM 事業でパートナーだったイーファ社との係争の件で、182 億円の債権に対して、109 億円引き当てをしていたような記憶がありますが、回収状況は進んでいますでしょうか。

A： 回収交渉については行っておりますが、まだご報告できるような進展はありません。我々としては当然のことながら、全額回収を目指して鋭意交渉を続けております。

Q： プリンター事業の構造改革や、ユーロ高などのベネフィットがあると思いますが、マーケット環境と競争力を含めた販売のところでシェアを取り戻しているのか、新製品の導入はどうか、教えてください。

A： プリンターについては、インダストリー市場へのシフトを進めておりますが、現在はその構造転換を図っているところで一部に明るい兆しは出てきていますが、具体的な成果はまだこれからだと認識しています。

(注) 本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、内容につきましては理解しやすいように部分的に加筆・修正をしております。